




令和3年 **10**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 **杉の天然記念物**

- (1)  住宅用木材の上昇鈍化 国内価格、輸入量が回復
- (2)  国産合板は一段高 10年半ぶり水準 生産追い付かず
- (3)  眠る森林資源に光を



今月の木の話

杉の天然記念物

*杉の天然記念物は49件、2位の桜の32件に大差をつけています。

特別天然記念物

☆羽黒山の杉並木（山形県羽黒町）

*出羽三山神社から山頂に至る2446段、1700Mの参道の両側の杉並木。

*直径1Mを超え、樹齢約500年の巨樹140本を主に、並木の総数約600本の巨樹・古木。

☆日光杉並木街道附並木寄進碑（栃木県日光市・今市市）

*日光東照宮、杉並木寄進碑付近を起点として総延長37km。

*樹高50M、直径1.93Mを最高に、杉約15000本が生育。

☆石徹白杉（岐阜県白鳥町）

*白山登山道海拔1000M付近に数本の老杉と共生している巨樹。幹回り14.5M。

*1300年の樹齢といわれています。

☆杉の大杉（高知県大豊町）

*八坂神社の境内にあり、南大杉と北大杉の2本が並んで立っています。

*南大杉は樹高60M、根回り約20M。北大杉は樹高55M、根回り16.5M。

◎杉の名は「直の木」からきたともいわれています。

（2008年発行（社）大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用）

(1) 住宅用木材の上昇鈍化 国内価格、輸入量が回復

- * 木材の国内価格の上昇が鈍り始めました。
 - * 輸入量が徐々に回復し、輸入材は価格上昇幅が縮み、国産の製材品は値上がりが止まりました。
 - * 輸入材は最高値で契約した素材が入港し始めたところ。
 - * 需要も堅調で高止まりが続きそう。
 - * 集成材は春以降、毎月前月比で約 2 割上昇し、4 か月連続で最高値を更新。
 - ・ 9 月の上昇幅は前月比 4%。
 - * 米松 KD 材は前月比 5% 高、グリーン材は横ばい。
 - * 7 月の集成材の輸入量は、前月比 1% 増。5 か月連続で前月を上回りました。
 - * 米国とカナダからの製材品の輸入量も前月比 4% 増。
 - * 国産ヒノキ材 KD 正角は、前月比横ばい。
 - * 輸入量の回復で製材品全体のひっ迫感が解消。
 - * 8 月には、生産量の多い九州で杉丸太の価格が一部下落。
 - * 最高値で価格交渉が決着した欧州産の引き板材「ラミナ」が足元で入港し始めた局面。
 - * 欧州内の需要は強く、欧州メーカーの多くは対日価格を下げていません。
 - * 国内価格はなお強含みで推移しそう。
- (2021 年 9 月 9 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 国産合板は一段高 10 年半ぶり水準

生産追い付かず

- * 国産針葉樹合板は、流通価格が一段高。
 - ・ 12 ヶ品は前月より 2% 高。2011 年 4 月以来の高値。
 - * 7 月の針葉樹生産量は 6 月比微減。
 - * 8 月は稼働率が一層落ち、構造用合板が急速に品薄に。
 - * 国産合板メーカーは丸太や接着剤の価格上昇を理由に、年明けから断続的に値上げ。
 - * 輸入型枠用合板は前月比 3% 高、最高値を更新。
 - * 主産地の東南アジアのロックダウンの影響で、工場の稼働率が下がりました。
- (2021 年 9 月 9 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 眠る森林資源に光を

*杉や桧などの木は植え始めてしばらくは光合成が盛んで、CO₂の吸収量が順調に伸びます。

・その後、環境によっても異なりますが、吸収量は下り坂になり、呼吸量との差し引きで見れば50年から70年を過ぎると植え始めとさほど変わらない水準に落ちてしまいます。

*CO₂の吸収力が弱まる「森林の老化」を防ぐには適度に伐採し、木を植え替える必要があります。

*森林によるCO₂の吸収量は、2019年度の4290万トから2030年度の目標値3800万トまで1割以上減る見通し。

*10月には脱炭素を狙った建築物に国産材を使いやすくする木材利用促進法の改正法も施行されます。

*建物や家具への木材の利用に「良い」印象を持つ率は日本が58%で最も低く、フィンランドは86%、オーストリアは84%。

*森林資源の循環利用の意識を学ぶ機会があると認めた割合でも、日本は最低の39%。

・イタリアは84%、カナダは67%。

(2021年9月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

